



おがわ けんどう
小川 虔道 氏

りょうざん
(号 令山)

生年月日 大正 9 年 9 月 22 日生

住 所 田辺市明洋二丁目

古典芸能に通じ、長年にわたり尺八奏者として数々の演奏会に出演するなど、田辺市の邦楽界の一翼を担ってきた一人である。また、盟友である那須筍山師^{じゅんざん}とともに生田流箏曲「菊宮会」の後見人的存在でもあり、同会会員とともに演奏する三曲合奏(琴、三絃、尺八)には欠くことのできない尺八奏者として、第一線で活躍している。

氏の尺八との出会いは、戦時中にまで遡る。当時、中国大陸に出征していた氏は、同じ部隊に所属する尺八の師範との交流を通してその魅力に触れ、そのことをきっかけに尺八を習い始める。戦後、帰郷した後、都山流尺八の森木葭山氏^{とざん かざん}(本名 森木啓之^{なんりん} [第 6 回(昭和 50 年)田辺市文化賞受賞])に師事、同氏が主宰する「南琳会」の一員として各種演奏会に出演するなど、尺八を通して古典芸能である邦楽の発展に寄与する。

また、昭和 59 年(1984 年)に設立され、現在の田辺市文化協会の前身となる田辺伝統芸能協会の主要な構成員として、同年 6 月に開館した紀南文化会館の開館記念地元参加行事「たなべ伝統芸能まつり」に出演、その後も同協会主催の演奏会などにおいて、日本の伝統的な楽器である尺八の音色を多くの観衆に披露してきた。

昭和 55 年(1980 年)頃には、同門の那須筍山師、松本耕山師らとともに都山流尺八「悟竹会」^{ごちく}を結成、その代表を務めるとともに、平成 4 年(1992 年)10 月に発足した田辺市文化協会に同会として加盟し、翌平成 5 年(1993 年)6 月に開催された「第 1 回文協フェスティバル」の舞台部門に出演する。その後も同フェスティバル舞台部門に毎年のように出演を果たし、同協会の発展に寄与するとともに、菊宮会との琴、三絃、尺八による三曲合奏を通して邦楽の重厚さと品格を現在に伝え続けてきた。

また、尺八だけではなく、雅楽で使用される“ひちりき”などの伝統的な楽器にも精通しており、過去には県指定民俗文化財である「田辺祭」の笠鉦の内囃子に参加(横笛)したり、後継者の指導・育成に携わったりするなど、地域の伝統文化の保存・

第 38 回 (平成 19 年)

伝承にも取り組んできた。更に闘雞神社での「新春演奏会」や奇絶峡の「桜まつり」、田辺（石神）梅林の「梅林まつり」等の各種行事や小学校での音楽鑑賞への参加・協力など、様々な機会をとらえて邦楽の魅力を人々に伝え、当地域の文化の振興に寄与している。

(略 歴)

昭和 21 年 (1946 年)	森木 ^{かざん} 葭山氏 (本名 森木啓之) に師事
昭和 24 年 (1949 年)	都山流尺八皆伝免許を取得
昭和 44 年 (1969 年)	都山流尺八准師範免許を取得
昭和 52 年 (1977 年)	都山流尺八師範免許を取得
昭和 55 年 (1980 年)	都山流尺八「悟竹会」代表